

第 5 学年 国語科学習指導案

5 年 1 組 3 4 名
指導者 山 戸 浩 一

1 単元名 こちら藍北放送局 キッズトピックスの時間です

2 単元設定の理由

本学級の学習者は、自己を表現する場においては、さまざまな課題と向き合っている。例えば、表現する内容を十分に自己内でふくらませられないため、作文と聞いただけで意欲をなくしてしまう子がいる。また、内容はふくらんだが、それを整理しきれないために、表現することをためらう子もいる。前者については、学習者の生活に密着した題材を手引きし、さらには、題、書き出し、構成の工夫を手引きすることにより、少しずつ長い文章が書けるようになってきている。しかし、後者については、まだ十分とは言えない。そこで、その課題を克服するための力を高める場に誘いたいと考えた。

本単元は、特集番組を制作する。第 1 次は、報道番組を視聴し、感想や気づいたことなどを自由に発言した。学習者は大変関心を示し、自分たちも番組を作りたいとの声が出た。そこで、ニュース番組制作の現場について書かれた文章を読み取る第 2 次へと誘った。学習者は、番組作りには細かい過程があり、さまざまな準備・練習が必要であることを知った。番組で「何を取りあげるか」については、学習者の身の回りから伝えるべきを題材を見つけることは難しいことであった。また、番組の制作にあたっては、「何のために、何を書くか」に加えて「どのように書くか」という効果的な表現の方法にも目を向けさせなければならない。したがって、第 2 次の教材文の読み取りは、「題材の選定」「放送原稿を書く観点や工夫」の確認が中心となった。これらの活動は、さらには情報活用等についての視野や知識も広めることにもつながると考える。第 3 次では、役割を分担して、実際に番組作りに取り組む。互いに交流しながら、修正や練習を重ねる第 4 次を経て、第 5 次の校内への発信につなげたい。

本時は、第 3 次の 2 時間目にあたり、班ごとに番組で取り上げたい課題を決める。課題を取捨選択する根拠を学習者がはっきりともつことにより、よりよい話し合いができるようにさせたい。

3 単元の目標

(1) 学習者の活動目標

- キッズトピックスを制作して、聞き手を引きつける内容・伝え方にしよう。

(2) 指導目標

- 自分が伝えたいことを意欲的に探し、伝え方や内容を工夫して発信できるようにする。
- 自分の伝えたいことや意図が伝わるように、話の組み立てを工夫しながら、適切な言葉遣いで話すことができるようにする。
- 集めた材料を、目的に合わせて整理し、表現を工夫して原稿を書くことができるようにする。
- 必要な事柄の順序にしたがって段落ごとに読み取ることができるようにする。

4 本単元における評価について

能力	評価規準	子どもがことばの力を身につけた姿の一例	評価の資料
関心・意欲・態度	自分が伝えたいことを意欲的に探し、伝え方や内容を工夫して発信しようとしている。	・「十分に満足できる」状況 聞き手に関心のある話題を選び、特集番組として伝えることを楽しんでいる。 ・「おおむね満足できる」状況にするための指導 朝の話題などで特集番組の内容を取り上げ、報道番組への関心や意欲を高めておき、活動意欲がもてるようにする。	・発言 ・話し合いの様子 ・学習の記録
話す・聞く能力	自分の伝えたいことや意図が伝わるように、適切な発声・発音、言葉遣いで話している。	・「十分に満足できる」状況 聞き手に分かりやすい表現で番組を伝えている。 ・「おおむね満足できる」状況にするための指導 手引きや教師の助言を手がかりにして、観点を明らかにし、相手を意識した話し方ができるようにする。	・発表 ・観察 ・学習の記録
書く能力	集めた材料を、目的に合わせて整理し、表現を工夫して原稿を書いている。	・「十分に満足できる」状況 教材文から学んだ編集や発信の方法を生かし、材料を選んだり、配列を考えたり、また、写真との関係も考えたりして、原稿を書いている。 ・「おおむね満足できる」状況にするための指導 原稿の書き方や手引き、モデルとなる文を提示し、伝えたいことが表れた文になるよう支援する。	・学習の記録（原稿）
読む能力	必要な事柄を時間の順序にしたがって段落ごとに読み取っている。	・「十分に満足できる」状況 番組作成の過程や特徴がひと目で分かるように、表や箇条書きにして整理している。 ・「おおむね満足できる」状況にするための指導 ワークシートや手引きを準備し、「最も大切なのは」「工夫が必要」「最も伝えなかったこと」などの言葉を手がかりに、大事なことや工夫が書いてあるところを探すように助言する。	・発言 ・音読 ・学習の記録（ノート）

5 学習計画（全15時間）

学習活動と指導（ ）	学習者の意識の流れ	身に付けさせたい力
1 学習の見通しをもつ。 （1時間） 説明文の学習の後、実際に自分たちの番組を作って発信する活動を知らせ、意欲づけを図る。 2 「ニュース番組作りの現場から」と「工夫して発信しよう」を読んで、まとめる。 （4時間） 手引きを手掛かりとして、大事なことや原稿を書くときの工夫を読み取れるよう支援する。 3 番組を作る。 （5時間 本時2/5） 前時までの学習を生かして、分かりやすい放送原稿が書けるよう助言する。 4 よりよい放送になるために練習をしたり、放送内容を改善したりする。 （3時間） 効果的な発信にするために受信する側から振り返り、改善することができるようにする。 5 キットピックスを発信し、学習のまとめをする。 （2時間）	新聞やテレビでニュースをみると、よ。 テレビニュース番組はどう作のかな。 特集ってなんだろう。 ニュース番組についてもっと知りたいな。 取材やインタビューをして材料を集めるんだね。 番組を発信するために必要なことは何かな。 聞き手の関心をひく話題を選んでいるな。 自分たちで番組を作ってみよう。 わたしたちが興味をもっていることを知らせたいな。 クラブ・委員会の活動を紹介したいな。 身の回りで考えなければならない問題を取りあげたいな。 内容を整理してわかりやすく伝えよう。 わかったことをまとめてみたいな。 感想や意見も書かないといけないな。 写真を効果的に使いたいな。 4年生に発信しよう。 4年生にわかるように発信して、喜んでもらいたいな。 アナウンサーやカメラマンになりきって発信するよ。 自分たちの番組が作れて楽しかったよ。 次は、どんなことを知らせようかな。	[読]文章構成の効果を考え、文章の組み立てを理解する。 [読]目的や意図に応じて内容を要約する。 （発言・学習の記録） [書]文章全体の構成や記述を考えながら、幅広く取材をする。 （メモ） [読]目的や意図に応じて、資料の中から必要な情報を読みとる。 （学習の記録） [書]書く必要のある事柄を適切に取捨・選択したり、整理したりする。 （学習の記録） [書]目的や意図、相手に応じて、適切で効果的な表現や言葉を選ぶ。 （原稿） [話]声を相手に届けることを意識して、力強い発声・発音で話す。 （発表） [聞]言葉遣いや話の内容の適・不適を聞き分ける。 （学習の記録）

6 本時の学習

(1) 本時の目標

学習者の活動目標

学級で取り上げたい課題を決めよう。

指導者の指導目標

班での話し合いをとおして、条件にあった課題を取捨選択できるようにする。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点	身に付けさせたい力	評価の資料
1 前時の活動を振り返り、本時の学習のめあてをつかむ。	○各班の題材を確認させ、話し合いへの意欲を高める。		
2 モデルを見る。その後、取り上げたい課題について話し合う。	○教師もモデルの話し合いに参加し、進め方や留意点を確認させる。 ○短冊を似た意見に分類してから話し合うようにする。 ○根拠を示して自分の意見を話させるようにする。 ○他の子の根拠を聞き、客観的に判断できるようにする。	○共通点を見つけ、意見を分類できる。 ○根拠を示して発言できる。 ○自他の意見を比較し、客観的に判断できる。	・短冊 ・発言の様子 ・手引き
3 決まった課題を発表する。	○決まった課題が書かれた短冊を黒板に張らせる。		
4 本時のまとめをし、次時の学習に意欲を持つ。	○本時の学習を振り返り次時の学習に生かすようにする。		・学習の記録

(3) 本時の評価

「十分満足できる」状況	根拠をはっきりとをもって話し合いに参加し、自他の意見を比較し客観的な判断をすることにより、取り上げたい課題を決めている。
「おおむね満足できる」状況にするための指導	手引きや教師の助言を手がかりにさせたり、教師自身が話し合いに参加したりして、話し合いをとおして取り上げたい課題を決められるようにする。